

No.	種 別	内 容
1	基準項目	教育内容・方法
	指摘事項	(2) 教育方法等 2) 研究科における、2004（平成 16）年度の学生による授業評価アンケートの結果から、理解度、講義・演習の項目で満足度が 50%以下のものがあり、また、平均満足度が 60%以下の専攻がある。各種の改善すべき問題点が明白になっているため、早急に組織的改善が望まれる。
	評価当時の状況	平成 16 年度に初めて修士課程において「学生による授業評価アンケート」が実施された。種々の質問項目を 5 段階評価で回答させた。「良い」、「非常に良い」と回答したパーセントの和は大学院生の満足度を示す指標になると考えて、各質問項目について大学院全体の満足度を以下に示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに示されている目的と授業の中身が一致しているか：53% ・授業の内容を理解することが出来たか：45% ・授業への興味を持てたか：51% ・教員の説明は分かり易く、話は聞き取りやすかったか：51% ・講義・演習における黒板、HOP の文字は見やすかったか：45% ・講義・演習における教材は分かりやすかったか：46% ・授業の進度は適切であったか：56% ・教員の言葉遣いや学生に対する対応は適切であったか：66% ・教員の授業に対する情熱と意欲は感じられたか：65% ・授業の雰囲気は良かったか：58% ・授業に対する総合評価は：53% ・出席状況等を考えて学生自身の受講態度に対する評価は：46% 学生の満足度が低いと考えられる 50%を下回る項目が 4 項目もある。また、70%を越える項目が皆無である。これらの結果から、学生が大学院教育に高い満足感を抱くようにするために、教員の教育・研究指導方法の改善を促進する方策を早急に考えて行かなければならない。 次に、各専攻別に上記 12 項目の平均パーセント結果を以下に示す。 <ul style="list-style-type: none"> ・電子工学専攻 : 49.4% ・機能材料工学専攻 : 70.0% ・知能機械工学専攻 : 79.5% ・電気工学専攻 : 54.5% ・情報工学専攻 : 46.1% ・情報通信工学専攻 : 64.5% ・管理工学専攻 : 53.9%
	評価後の改善状況	各大学院担当教員は教育改善に努力を重ねた結果、学生の授業評価も次第に良くなってきた。平成 20 年度前期の授業評価アンケート集計結果は本学大学院ホームページ http://www.fit.ac.jp/graduate_school/ceq2005-01/index.html （現在は学内公開）に公開されている。質問項目は平成 16 年度実施分と多少異なっているが、比較のため過去 2 年間の結果も併せ示されており、平成 16 年度に比べ、理解度満足度は向上している。 <学生による教員の授業評価> <ul style="list-style-type: none"> ・シラバスに示されている目的と先生の授業の中身は一致していましたか。67% ・先生の授業の進度は適切でしたか。73% ・先生による説明は一方的ではなく、学生参加が奨励され、活気ある授業が行われましたか。72% ・授業科目の各テーマ内容について先生の授業時間の配分は適切でしたか。67% ・あなたからみたこの授業に対する総合評価を示してください。74% ・上記 5 項目の平均値 71% <学生の自己評価> <ul style="list-style-type: none"> ・あなたは授業に対する事前準備（予習、文献調査等）を積極的に行いましたか。54% ・あなたは授業では積極的に質問をしましたか。37%

	<ul style="list-style-type: none"> • 授業内容にあなたの知的好奇心を刺激され、興味と関心が深まりましたか。72% • あなたの研究計画推進のための文献精読能力は身に付きましたか。67% • 授業を通して英語学術論文の読解力は身に付きましたか。71% • 課題発表を通じてあなたの探求心や社会的責任感は身に付きましたか。74% • 上記 6 項目の平均値 63%
<p>改善状況を示す具体的な根拠・データ等</p> <p>別添 資料 4「大学院授業評価アンケート（平成 20 年度前期）」参照</p>	
<p><大学基準協会使用欄></p>	
<p>検討所見</p>	
<p>改善状況に対する評定</p>	<p style="text-align: center;">1 2 3 4 5</p>